
死体コレクター

エビのしっぽ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死体コレクター

【Nコード】

N9437A

【作者名】

エビのしっぽ

【あらすじ】

僕には『趣味』がある。誰でも持っているようなありきたりの『趣味』。

(前書き)

続編も書こうと思いますが、自信がないのでわかりません…。
(笑)

……窓の外をじっと眺めてみる。窓から見える湘南の海は、地平線へと沈みゆく夕日で朱色に染まり、波が光を反射して、ちよつとした絶景になっている。僕は、この毎日のように見る景色がとても好きだ。一日の嫌な気分も、忘れてしまえる。それに加えて僕の横には、その幸せをさらに大きくしてくれるものがある。

：町田 嘉代子。それが『物』の名前だ。『それ』が持っていたシヨルダーバッグの中にあつた運転免許証からわかった。『それ』は全裸で、ベッドの上で僕の傍らに横たわっていた。脱がせた衣服はベッドの隅にきちんとたたんで置いている。身につけていたアクセサリーなどもその上に置いてある。

（腐らないように、早めに『保存』しておくかな……。）そう思った僕は『それ』を抱きかかえ、地下室にある冷凍庫へと向かう。

：『彼女』に初めて会ったのは、昨日の午前1時頃だった。

12時まで会社で残業した帰り、寄り道した居酒屋で『彼女』はひとりで飲んでいた。見たところ20代前半だろう。えらく不機嫌な感じだった。それとなく話を聞いてみると、会社の上司に嫌がらせをうけたのだという。『彼女』は最初是不機嫌そうに話していたが、話すにつれて少しずつ落ち着いていった。

「あなたに話してだいぶ楽になったわ。付き合ってくれてありがとう。」

みたいな感じでそのまま3時まで酒を一緒に飲み、家に誘った。

『彼女』は部屋に入ると待っているかのようにベッドに横になってこちらを見た。僕はそれに従い、ベッドの『彼女』に馬乗りになった。『彼女』は目を閉じた。

…そして僕は『彼女』の華奢な首に手をかけた。

瞬間、『彼女』は目を見開き、驚愕の表情で僕を見つめたが、泥酔していたためたいた抵抗もできず、首の骨を砕かれ絶命した。

大きく目をひらいたまま、『彼女』の時は止まった。

…地下室の扉を開け、冷凍庫の前に『それ』を置く。死後半日以上経っている『それ』は、徐々に異臭をはなちはじめていた。僕は冷凍庫の扉につけていても大きな南京錠をはずした。

この冷凍庫はこの家を購入したときからあった。十六畳ほどあるこの冷凍庫を前住者が何故作ったかは知るよしもないが、僕にとっては非常に都合のいい『これら』の保管場所になっていた。重く冷たい扉をあけ、『それ』をかかえて中に入る。そして『六体目』の左側に『それ』を立て掛けた。僕は冷凍庫から出る前に全体を見渡し、満足感をかみしめながら地下室をあとにした。

人には誰しも『趣味』というものがある。それはスポーツであったり、読書であったり、ゲームであったりもする。

僕の『趣味』もそんな中のひとつだ。

…そう。僕の『趣味』は『集める』ということ。いままでも、これから、ずっと先も。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9437a/>

死体コレクター

2011年1月20日01時16分発行